The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国における日本古典文学への一考察 : “弱水三千”から展開する日中語の差異を中心に
Author(s)	越野, 優子
Citation	詞林. 2016, 59, p. 53-62
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57906
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

中国における日本古典文学への一考察

―〝弱水三千〟から展開する日中語の差異を中心に―

越野　優子

一、はじめに―認識の相違について

本稿は既に前拙稿[1]で分析した中国の大学における日本古典教育の位置づけについての続編にあたり、更に本稿の副題にある視座にて分析するものである。

注1でも言及したが、日本において漢詩（あるいは漢詩文／漢詩文学／漢文学）という分野は長い伝統をもち既に確立された研究分野にあるにも関わらず、素朴な疑問がある。それはこうした漢詩文が日本で享受されるときには訓読という形をとって日本人が読める形にして取り入れたわけであるが、元々の〝诗（漢詩という名称も既に日本からみた視座によるもの。中国の視座からは単に诗であろう）〟と、日本化した〝詩（漢詩）〟が同じものであるはずはなく、差異が当然生まれているわけで、それについてどこまで論じられてきて、どこまでわかってきたかということである。稿者は中国在住の日本語母語話者という立場で、主に授業（学部及び大学院）を通じ行った考察を基に、この問題について以下更に掘り下げていきたい。

二、日中の日本古典文学教育と意識の変遷

日本が中国から詩文を得た約千年前から両国の文化は交流があるが、日本では漢詩文という形で独自の日本化の成長を遂げた。この日本化のことは中国にも「訓読法」として伝わっている[2]。謝立群（二〇〇〇）では[3]、一九九五年刊行の『中国日本学文献総目録』（一九九三年までを所収）を元にして考察がまとめられ、それによれば中国における日本古典文学研究は詩歌が最多で、更にその半数近くを古典文学が占めることが述べられている。中国で翻訳された日本古典文学作品は『竹取物語』から『好色一代女』まで一〇作品が挙がっている。坪井（一九八八）が述べるように、一九一九年の五四運動を契機に外国語の翻訳が進められていたことの証左と言えよう。

謝（二〇〇〇）の中で触れられていた研究機関の中で「北京日本學研究センター」があがっているが、そこに勤務する

張龍妹（二〇一三）では謝（二〇〇〇）から約一三年後の中国の研究の状況が伝えられている。[4] 日本古典文学関係の作品の翻訳は約五四（〝関係〟と書いたのは、例えば『枕草子』だけではなく『枕草子事典』も含む為）に増え、またこれらの翻訳が一九六〇年代には企画されていたが文化大革命で頓挫し一九八〇年代にようやく出版が開始した事実も述べられ、『今昔物語集』にみられる日中の文化的差異が、「手枕」等の両国の意味の差異から生じた点がまとめられている。

注1拙稿の注6（vi）から改めて中国における日本語教育の変遷の個所を引用すると、「（二〇一一）『中国日語教育概覧1』（北京　外語教学与研究出版社）より。一九四九年から、北京大学（一九四九年）北京外国語大学（一九五九年）吉林大学（一九五三年）上海外国語大学（一九六〇年）などに日本語科が続々と設立された。一九六〇年代の文化大革命を経て一九七二年に国交正常化が行われると、天津外国語大学（一九七三年）、厦門大学（一九七二年）など、更に日本語科が増加したことになる。稿者の勤務校福州大学は一九七八年に外国語学部が設立され、二〇〇二年に日語系が設立、二〇一五年に日語系の大学院か開講した」という流れで、一九四九年の中華人民共和国樹立以降既に日本語科は設立されていたとはいっても、やはり一九七二年の日中国交正常化が両国の交流の最も重要な時点であった。ただ張龍妹（二〇〇〇）にも述べられているが、[5] 二〇〇〇年の段階ではまだ、「中国における源氏研究の主流は各大学の中文系で外国文学を教えている中文出身の教師で」という状況だったのが、参考文献で挙げたように最近は、葛茜（二〇一四）王浄華（二〇一一）・金中（二〇〇九）・楊金萍（二〇〇三）等の論文にあるように、日本語或は日本文学専攻の中国人留学生が帰国後教鞭をとる形で、直接法ではなく双語（日中両語）で講義を行い始めている。古典文学のように日本語の古語と古代中国語を含む難解な文献を取り扱う授業も、両国語を熟知した教員で行われることで、学生には理解しやすくなるという利点が生まれつつある。これが現況であろう。

こういう状況の中稿者は、日本古典文学を授業で取り扱うとき、徐々に双語の状態（稿者は日本語を話すという直接法を選び、PPT等の資料は中国語を多く取り入れる）に持ち込みつつあるが、その体験を経て得た当初の予想と結果のずれが本稿を生むきっかけとなっている。

注1拙稿に具体的な講義内容と考察を扱った通り、日本古典文学は古代中国の影響から発生したために、当初中国の学生にとって理解しやすい科目と稿者は想定し授業計画を立てた。しかし学生は〝日本化（訓読文化）した中文（中国語）〟を知識としては知っていてもそれを実際に活用することを非常に難しいと考えているということがわかった。私たちにとっての「春望」は彼らが考える「春望（chun1 wang4）」と同義ではない。

こうしたことと関連するプロジェクトが既に始まっている。合山林太郎主催の「和習の会」はその一例と考えられる。[6] 当該プロジェクトの骨子から抜粋すると「漢詩には「和習」がある（日本人特有の習癖、あるいは、日本人がよく犯す文法・句法・語法上の誤り）ということがよく言われます」とある。合山が「和習」という言葉でのべているものが稿者の考える〝日本化〟に繋がるものと考える。李宇玲（二〇一五）では「他们究竟是完全通过〝汉文訓读〟方法来学习汉籍，还是对汉语发音有一定程度上的了解呢？」（稿者訳：平安時代の彼らは訓読方法によって漢籍を完璧に学んだのだろうか、それとも、中国語の発音がある程度理解できたのだろうか？）と述べている。[7] 日中ともに、お互いの詩（诗）にずれがあることを自覚している。中国の李（二〇一五）が述べるように、日本人が日本的に理解しているだけで本当の意味で理解しているだろうかと、発音の問題を出して言っているのは二〇一五年という現代の彼らの素朴な疑問であろう。

この度稿者は、「弱水三千」という言葉について、学部生及び院生に稿者に説明させる試みをした。この言葉は次の節で簡単に説明するが一定の水準の中国人なら知っている言葉である。稿者の予想では、言葉を知っておりそのうえ日本語科の学生及び院生がこれを稿者に説明（＝日本語で説明）することは非常に簡単に思われたのであるが、そうではなかった。

三、「弱水三千」について

この言葉を百度（中国のyahoo!のようなインターネット検索の最大手）で調べてみると（http://baike.baidu.com/link?url=F_CLxZ6wrMDZblndOFawOASBxDWnaKljqJ-5hyZn2LnQ5vivfmhQnLdREKUYpS-aotpHBM1nWXOg3dxh2Rq）、「弱水三千只取一瓢，源起佛经中的一则故事，警醒人们〝在一生中可能会遇到很多美好的东西，但只要用心好好把握住其中的一样就足够了〟。《红楼梦》中贾宝玉借用此典表示对林黛玉的喜爱」で、この言葉は正式には「弱水三千只取一瓢（饮）」という語句である。いろいろな説があるが例えば辞書的な解釈をすれば、「弱」（ruo）という言葉が「《说文》里注解：弱，溺之简略也」ということで、「溺」の略字であるという意見がある。「溺」＝「河里溺水、小桥都没了」（川の水が増え、小さな橋が水浸しになった）という用例があるので、水が多くなった中（弱水）でも、ただ一つの瓢箪を選ぶという意味が浮かぶ。非常に多いものから只一つの瓢箪に入っているような一掬いの水を選び、それを飲むというように訳せばよいことが分かる。劉志学（二〇一五）によれば「もともと仏経の話からのものである。「一生の間には、たくさんのすばらしいものと出会うかもしれませんが、心を込めてその一つだけをしっかりつかむのは十分だ」の意味がある。「弱水」は浅くて、水の勢いが急な川を指すが、《紅楼夢》の中は「愛情の川」の意味と広がっていく。

「三千」は数量三千の意味ではなく、「多い」のことである」となる。[8]「三千」は「白髪三千丈」のような言葉から誇張の言葉と理解できる。『紅楼夢』の恋愛の言葉として著名になったので、多くの人に出会っても選ぶのはただ一人という言葉に訳せば問題ないであろう。

問題は『紅楼夢』で著名になった言葉だとしたら、日本でこの語句についての考察があると考えても不自然でないと思われるが、国文学研究資料館電子図書館の論文目録データベースで「弱水三千」は全項目皆無、「弱水」皆無、「三千」は多くヒットしたが一般的数詞なので無関係なものばかりで、強いて関係のあるものすら、山本唯一（一九八四）「『奥の細道』と『白氏文集』―「標泊三千里の思ひ」などをめぐって―」（『文芸論叢』（大谷大学））くらいである。一般的な検索エンジンを使うと、「弱水」については、非常に遠く離れているたとえとして「蓬莱弱水」が挙がる（出典は『列仙伝』）。その他、蓬莱については「〔中国の伝説で〕東海にあって仙人の住むという山」（新明解国語辞典第7版）「中国神話で崑崙山を取り巻いて流れるとされる川」（goo Wikipedia）などが当たる。このように『竹取物語』の蓬莱の玉の枝以来、蓬莱に関しては日本の古典分野では度々言及されてきた言葉であるが「蓬莱弱水」となると、やはり論文目録データベースでは皆無となる。

学術情報から一般に目を向けると、「中国ボーカロイド・洛天依のオリジナル曲「甄姫」歌詞と日本語訳」というブログが目につく。[9] この中の「只为东去流水中　取一瓢换取来世的自由（ただひたすらに東へと流れる水の中　汲み取ったひと掬いと引き換えに来世の自由を得る）という歌詞に一部出てきて、ブログ作者は、「最後の歌詞「取一瓢换取来世的自由」というのがまた難しいのですが、〝取一瓢〟というのはたぶん中国の古典小説「紅楼梦」に登場する次の言葉から来ているんじゃないかなと思います「任凭弱水三千，我只取一瓢饮」『たとえ果てしなく水が溢れていようとも、私はただひと掬いを取りそれを飲む 』」と述べる。その他はドラマ「蘭陵王」の台詞から「弱水三千你偏偏只取一瓢飲〟（弱水河は三千里もあるのに、あなたはたった瓢箪ひとすくいの水しか飲まない＝女は他にもたくさんいるじゃない。なんで私じゃなきゃダメなのよ?）」が別の一般ブログにも記されており、ブログ主はこの言葉を「『紅楼夢』（一八世紀）から」と解説する。古い来歴があっても中国の現代のドラマの一般視聴者に、それと分かる引用として知られているのは『紅楼夢』ということであろう。但し劉（二〇一五）が「現代では、この言葉は、告白の専用用語だけではなく、普段の生活でも使える。例えば、仕事を探すとき、欲張りしないで、自分が一番好きな分野を選ぶ。仏の言うように、いつもゆったりした態度で生きる。それは人生が求める最高な境界である」[8]というように、言葉が時代を経て変遷し意味が変容するのは理解できるところである。

こうしてみてくると、日本語の一定水準の能力があれば、「弱水三千」を日本語訳することは容易に思えるが、事はそれほど簡単ではないことを、次に大学でのアンケート調査を中心に見ていきたい。

四、中国の現況と日本化の是非及び〝偽中国語〟

現況については学生（四年生二八人、院生二人）に、学部生は第一学期の日本文学の授業の終わりに、院生は「高級日语阅读与写作」という授業の終わりにアンケートを取った。いくつかの設問の最後に、「〝弱水三千只取一瓢〟について。この言葉を日本語訳するとき、難しく感じる個所と理由をなるべく詳しく書いてください」と稿者が作成した。稿者の勤務校では第三学年から「日语笔译A，B（日译汉）」、四年生一学期に「日语口译」という翻訳の授業がある。三年生で大半が日本語能力一級の試験に合格する。院生二人はもちろん合格している。こういう背景のもとで、彼らに答えてもらった。

院生劉志学からはレポートで参加してもらったので、院生王新新のアンケート結果を記すと、「中国の古い言葉なので、言葉の背後に物語や出典があって、説明や翻訳するのは難しいです。良く調べないと自分もこの言葉の意味を分からないです」と書いている。王新新は日本語能力に遜色は一切ない。その彼女でさえ難しいと考え、調査の必要性を述べている。[10]

学部生を見ると、一口に同じ四年生といっても、「中国語さえ意味がわからないので」「弱水とはなんですか」（抜粋）という正直な意見もあるが、まず〝弱水〟について、「「弱水」という言葉が日本語に翻訳しにくいのです」（抜粋）「「弱水」とかの概念はまず日本語の内にはいないので」「「弱水」は中国の地名だそうです」（抜粋）という答えが散見されている。また「弱い水が数え切れないほどあった」（抜粋）といったん消したものもあった。次に〝三千〟という言葉そのものに言及したアンケート結果は一つもなかった。〝弱水三千〟の問題は、〝弱水〟にあることがわかる。

学生たちが総合的に述べた言葉から抜粋すると「中国語でこの言葉は非常に美しい言葉だと思います。したがって、訳するとき、この美しさを日本語で表すことができるかどうかは難しいです」「この言葉を直接に日本語で訳することが本当に難しいと思っています。何か中国語で意味がわかりますが、ただし感覚的上の意味ですが。具体的な意味をはっきり説明することがなかなかできないと思っています。中国語でも説明しにくいですが、日本語で訳することは、私にとって、やはりもっと難しいです」「中国語のほうは簡潔で、それと同等する日本語がないで、一番重要なことは中国語を詳しく解読することになる。もしこの言葉をちゃんと理解できれば、日本語に語訳するのも簡単になれると思います」「この句を日本語に訳すときに、表面の意思をそのまま訳せば、問題はないが、実は、中国人にとっても、この句に隠される深意が

わからないから、深意を訳しださないと、成功な翻訳だとは思わない。まずは、この句についての典故を知らなければいけない。そうすると簡単に訳すことができる」「日本語訳すると、違うイメージが出ってきます。意訳するとその場面の感じ印象が違います」「中国の漢詩は特別なリズムがあるので、日本語でそのような魅力的な雰囲気が表現できるかどうかわからない。そして〝弱水〟、〝三千〟など、中国のことばははっきり日本語で意味を説明にくいと思う」「この言葉は深い意味があるので、直接日本語訳すると、本当の意味を現れることができません」「〝弱水〟〝一瓢〟という言葉を日本語で訳すのは難しいと思います。またこの境地を正しく表現するのは一番難しいです。たぶん、中日の文化は全然同じではないからかもしれないかなと思います」「隠喩が訳しにくいと思う」等であった。このように彼らは中国語独特のリズムや美を感覚以外で感受することの難しさを色々な表現で説明している。ここから、「詩」はそのまま感受して初めてその意を理解できるのであり、日本語化をほとんど無理だと考えていることがうかがい知れる。前野（一九六八）が、「ところが中国語に対しては、発音を知らなくても、いきなり日本語として読むことができる。外国語に対するこのように特殊な読み方が「漢文」の二字に含まれているのである」と他の外国語との相違を説いているが、学生たちは「日本語として読むことができる」ことに対して否定的というか無理であろうと考えている。同じ前野（一九六八）が「ことに江戸時代の漢学者は、漢文の中に日本語的な要素が混入するのを「和臭」として嫌った」旨述べている。日本語―漢文―中国語が不断の関係で連結している以上、「和臭」は逃れようがないと考える。

この「和臭」の問題は前拙稿でも取り扱った、楊（二〇〇三）が述べる純粋漢文と変体漢文の問題そのものである。「和臭」については魚返善雄（一九六四）「日本本漢文の「和臭」について」（『古代文学』四）、朱敏（一九九六）「漱石漢詩の用語に関する一考察―「和習」と「和臭」の用例を中心に」（『実践国文学』五〇）の二つしか、これを題目に持つものに出会わなかった。[11]「変体漢文」を題目にもつ論文を国文学論文目録データベース（国文学研究資料館）で調査したところ、二〇一六年二月の段階で二三件、「訓読」になると八三七件に一気に増加するので、まだこの分野に関しては現在進行形の研究ということになろう。前拙稿でも記したが、楊（二〇〇三）によれば中国でも古代中国語と古代日本語の日本語学の観点からの研究はあまりないということであり（具体的な件数は楊は記していない）、日中双方でこの分野についての研究が不足していることがわかった。これについては日本側からは、既に訓読の分厚い研究史が必要性を感じさせないといえ、また中国側からは、「そのまま中国語を読めてしまうので訓読の必要がない」為に両者の狭間に興味を持ちにくいという意見も尤もであろう。[12]

ただ学術だけでなく在野にも面白い動きがみられる。それが〝偽中国語〟という、日本のツイッターから中国語の微博（中国語版ツイッター）に逆輸入されてできた動きである（二〇〇九年からこのような動きがみられたという台湾の報道もあるが、ここのところ一斉にネットニュースで話題になった）。具体的な流れは日本人からで、時系列に沿いまとめると

・日本人大学生が#偽中国語（＝漢字だけの中国語風な日本語文章、と稿者は説明しておく）をツイート　二〇一六年一月七日
・中国人Twitterユーザーが#偽中国語を発見　二月一七日
・中国版ツイッターweiboに投稿され中国で流行り始める　二月一七日深夜
・元ネタの日本人大学生が中国人からのリプライ（反応）が大量に届き始める二月一八日午前。[13]

「偽中国語」これは注13にまとめられているが、漢字だけの日本語で中国語風にみえるというものを指す。代表的な例としてよく循環していたものは、

・例文①―日本語
「今日の夜横浜中華街で夜ご飯。大変美味しかった」
◆偽中国語
今日夜横浜中華街夜飯、大変美味
◆正しい中国語
今晚在横滨中华街吃饭，非常好吃（傍線稿者）

になる。「～で（場所）」の「在」、「吃饭（食事をとる）」「非常（とても）」という中国語が日本語に置き換わっているが、この偽中国語のトピックスの面白さは、ほぼ中国人に通じる上に「大変」という言葉の音の妙趣である。注13では「〝大変〟のガチ中国語発音はDaBian（だーびぇん）「うんこ」の発音も同じくDaBian（だーびぇん）となります」と記しており、音が同じ故のトラブルと面白さを述べている。

例文―②日本語
あなたは明日どこに行きますか？
◆偽中国語
貴方明日何処行？
◆正しい中国語
你明天去哪里？

になり、注13は「これは、ほぼ古代中国語のままの形ですね。何＋処→何処（どこ）　何＋故→何故（なぜ）　何＋人→何人（だれ）」と解説している。古代中国語的であるというのは、これに対する中国人の反応が「感覚好像古文」（古代中国語みたいだ）というものがあったことからもうかがえるが、同時に「能看懂是什么」（どうしてこの偽中国語が自分は理解できるんだろう？）とつぶやいていることも興味深い。もちろん全ての偽中国語が中国人に理解できることはないであろうし、誤解も多く生まれることもあろうが（例えば「手紙」は中国語では

トイレットペーパー）これもまた「和臭」のする中国語の最も現代進行形的な用例と言えよう。

五、終わりに

稿者は中国におり日本語側からも中国語の側からも見ることができる立場にある。王浄華（二〇一一）・金中（二〇〇九）・楊金萍（二〇〇三）などにあるように中国人教員が日本古典文学を教授する際の問題点や考察がいくつかでてきたが、稿者は日本人教員として彼らとは逆の側から進めたいと考えている。稿者の研究の姿勢がここでかかわってくるが、本文研究及び外国語翻訳から源氏物語を追い続けてきたときの稿者の姿勢は、差異は差異として、異端とせず独自世界をそこにみるものであった[14]。ゆえに授業を通して学生が純粋漢文と変体漢文をどの程度読解できるかを更に精査および考察したいと考えている。よって今回扱った〝弱水三千〟のような中国語とそれを日本語訳したものを容易にイコールで結ばず、次の段階では両者を並列させてそれぞれにどのような差異が生まれていくかを考えていきたい。また同時に稿者の姿勢として「和臭」は肯定的な存在なので、〝偽中国語〟の体系的な整理も行っていきたいと考えている。

［付記］
本稿作成のもととなったアンケートに参加してくれた福州大学の四年生28人及び大学院生王新新と劉志学の二人に謝意を表する。

〈参考文献〉

・金文京（一九八八）「漢字文化圏の訓読現象」、『和漢比較文学の諸問題』汲古書店
・金中（二〇〇九）「中国における日本語文語授業の工夫―現代短歌と抒情化の導入」、『日本語教育年報（東京外国語大学）』一三号
・葛茜（二〇一四）「中国の大学日本語専攻教育における言語教育観とその教育の再考―日本語教師へのインタビューから―」、『日本語・日本学研究』vol.4
・越野優子（二〇一五）「日本古典文学の授業の現況と課題」、『研究と資料』第七四輯
・越野優子（二〇一三）「人物呼称の表記の考察―村上春樹とその翻訳作品を中心に」、『待兼山論叢』（文学篇）四七輯
・李宇玲（二〇一五）「平安朝省試诗与唐代省试诗」、『日本文化理解与日本学研究』（北京日本学研究中心三十周年記念論文集）
・前野直彬（一九六八）『漢文入門』（ちくま文庫に二〇一五年収録）
・田中草大（二〇一三）「変体漢文の文体性格を測る手段に

ついて」、『日本語学論集』第九号
・坪井佐奈枝（一九八八）「中国における日本古典文学の翻訳と研究」（『和漢比較文学の諸問題』汲古書店）
・王浄華（二〇一一）「中国の大学における日本文学教育の課題への提言―文学教育研究の必要性を中心に―」、『白山中国語』一七号
・楊金萍（二〇〇三）「中国における日本語古典研究の現状と将来」、『国文学解釈と教材の研究』六八-七号
・張龙妹主編（二〇〇六）『日本古典文学入門』（外語教学与研究出版社）

注

（1）拙稿（二〇一五）「日本古典文学の授業の現況と課題」、「研究と資料」第七四集

（2）例えば、张龙妹主編（二〇〇六）『日本古典文学入門』（外語教学与研究出版社）の第五章懐風藻のところで漢文訓読法Ⅰ、第一一章菅原道真《本朝文粋》で漢文訓読法2が登場する。

（3）謝立群（二〇〇〇）「中国における日本古典文学研究の現況」（『詞林』二八号、大阪大学古代中世文学研究会）

（4）張龍妹（二〇一三）「中国における日本古典文学の翻訳と研究―『今昔物語集』を中心に―」（説話文学会編『説話から世界をどう解き明かすのか　説話文学会設立五〇周年記念シンポジウム［日本・韓国］の記録』（笠間書院）

（5）張龍妹（二〇〇〇）「中国における『源氏物語』研究」（『源氏研究』五号）

（6）合山林太郎［日本漢文学プロジェクト：日本漢詩文における古典形成の研究ならびに研究環境のグローバル化に対応した日本漢文学の通史の検討］より。「現在、「和習研究会―高兵兵先生を囲んで―」という勉強会を有志で開催しております。日本人が作った漢詩には「和習」がある（日本人特有の習癖、あるいは、日本人がよく犯す文法・句法・語法上の誤り）ということがよく言われますが、その「和習」の内実を具体的に考えようというのが、この勉強会の目的です。会では、近世・近代を中心に日本人の作った漢詩を、西北大学教授の高兵兵先生、また、大阪大学の中国人の大学院生の方々に読んでもらい、どのように評価できるのか、もし通じない箇所があるとすれば、どのような点なのかについて、議論を行っています」と説明されている。二〇一六年一月から二月に研究会が開催された。稿者は参加できていないが、資料を大阪大学大学院研究生黄鶯の厚意により入手している。謝意を表する。

（7）「平安朝省试诗与唐代省试诗」（二〇一五）『日本文化理解与日本学研究』（北京日本学研究中心三十周年記念論文集）

（8）劉志学（二〇一五）「弱水三千、只取一瓢について」（大学院の講義でのレポート課題）。

（9）http://chinanime.blog.fc2.com/blog-entry-433.html「蘭陵王」については http://palantir2.seesaa.net/article/420252596.html
二〇一三年八月から中国で放映されたドラマ。全四六回。

（10）学部生に関しては日本語能力にかなり開きがあるので、匿名で引用をしたことをお断りしておく。また原文ママである。

（11）この「和臭」と「和習」は朱敏（一九九六）の論文題目でも

あるが、注6で記したプロジェクトの一環としての「和習の会」にも通じるものであるのは言うまでもない。

(12) 二〇一五年一〇月二五日北京日本学研究中心三十周年記念シンポジウム（於　北京外国語大学日本学研究中心）の古典分科会での張龍妹の稿者への発言より。

(13) http://iyota.asia/fakechinese/?from=timeline&isappinstalled=0「Twitterで偽中国語が話題→中国人「普通に通じるアル」」投稿日時：二〇一六年二月一九日　投稿者：アジアのイヨタ」のブログに多くまとまっている。これは微信（中国語版lineのような、無料メッセンジャー）で「日本网友都在玩的〝伪中国语〟到底是什么鬼？感覚不用学日语了」（稿者訳：日本のネット民が「偽中国語」で遊んでいるけど、いったいなにこれは？日本語を勉強しなくてもいいね）などといわれて、二〇一六年二月の間、流行っていたものである。その他http://news.livedoor.com/article/detail/11209487/「日本のネットで使われる「偽中国語」が中国でも話題に」（二〇一六年二月二二日　一一時四一分　ライブドアニュース）など。

(14) 越野優子（二〇〇七）「国冬本源氏物語の研究」（大阪大学学位論文）で源氏物語の写本の異文に対し、〝独自本文〟という言葉を使用した。二〇〇七年以降は外国語（韓国語訳）にも同様の姿勢で、翻訳作品を独立した〝韓国語版源氏物語〟という視座で扱ってきた。また中国語については、越野優子（二〇一三）「人物呼称の表記の考察―村上春樹とその翻訳作品を中心に」、『待兼山論叢』（文学篇）四七輯にて村上春樹『東京奇譚集』の中国語版のもつ独自性について言及した。

（こしの・ゆうこ　福州大学外国語学部日語系兼職教授／副教授（特聘））